

「人の心を見つめていきたい」 挑戦を続けるまんが家

藤子不二雄 A (安孫子素雄)



夢をふくらませた少年時代

この学校でも、ちゃんと友達ができるかな。高岡市立定塚小学校5年青組に転校してきた藤子不二雄A(安孫子素雄)さんは、不安と緊張でいっぱいでした。恥ずかしさをまぎらわすために、ノートにチャンバラの絵を描いていると、藤子・F・不二雄(藤本弘)さんが、話しかけてきました。「おまえ、絵がうまいのう。ぼくも、絵を描くのが好きなんだ」

これが、のちにまんが家として活躍する藤子不二雄Aさんと、藤子・F・不二雄さんとの運命的な出会いでした。

それからというもの、藤子不二雄Aさんは、藤子・F・不二雄さんと一緒に夢中になって絵を描いたり、ストーリーを話し合ったりしました。

自分の描いた作品に心を躍らせ、楽しんでくれる



ぼくの作ったストーリーや絵を喜んでくれる人のために、楽しいお話や、ドキドキする物語をずっと創り続けていこう...

藤子不二雄Aさんの作品には、夢や友情など、さまざまなメッセージが込められているね。

ふるさとを大切に思っていた気持ちも、表われていると思います。



人がいる。ああ、もつとまんがを描きたい。

小学校、中学校、そして高校時代…。藤子不二雄Aさんは、風景や人、犬や猫の姿などをノートいっぱい描いたり、大好きな映画をたくさん見たりして、まんがの研究を重ねました。

また、手塚治虫さんの『冒険漫画物語 新宝島』という作品に強い刺激を受け、心に芽生えた感動を手

2 文化の花を咲かせよう

藤子不二雄 Aさんの三十二年表		
西暦	年齢	
1934年		氷見市に生まれる
1944年	10歳	高岡市立定塚小学校に転校して、藤本弘さんと出会う
1950年	16歳	藤本さんと一緒に手作りのまんが雑誌『少太陽』をつくる
1951年	17歳	「藤子不二雄」のペンネームで『天使の玉ちゃん』でデビュー
1954年	20歳	上京し、まんが家として本格的に活動をはじめ
1964年	30歳	『オバケのQ太郎』（共作）『忍者ハットリくん』の連載がはじまる
1970年	36歳	『まんが道』の連載がはじまる
1978年	44歳	『少年時代』の連載がはじまる
1987年	53歳	「藤子不二雄」のコンビを解消し、「藤子不二雄 A」として新しいスタートをきる
2004年	70歳	『サル』を連載するなど、意欲的に活動中



「少年時代」にも力を注ぎました。藤子不二雄 Aさんは、プロデューサーとして映画

紙に書いて送りました。手塚先生からは、ときどき、手紙の返事と一緒に書き損じの原稿や下書きなどが送られてきました。それらをお手本にして絵を描くうちに、藤子不二雄 Aさんの心には、大きな夢が育っていったのです。「絶対、手塚治虫先生のようなまんが家になるぞ！」さまざまな新聞や雑誌などに投稿を続け、念願のデビューを果たした藤子不二雄 Aさんは、上京し、本格的にまんが家として活動することにしました。

さまざまな表現に挑戦したい

まんが家として活躍するようになった藤子不二雄 Aさんは、『オバケのQ太郎』（共作）、『怪物くん』、『忍者ハットリくん』など、さまざまなヒット作品を生み出しました。これらの作品は、テレビアニメや映画になり、多くの子どもたちがユーモアと愛嬌のあるキャラクターに夢中になりました。楽しくて夢のある子ども向けのまんがだけでなく、人の心の動きや、運命や出会いなど人生そのものに注目した作品も描いてみたい。

藤子不二雄 Aさんは、まんが家をめざす若者の姿を描いた『まんが道』や、風刺の効いた『笑ウせえるすまん』などの作品を発表し、まんが界に大きな影響を与えました。

また、エッセイを書いたり、映画「少年時代」のプロデューサーを務めたりするなど、広い分野で活躍するようになりました。

藤子不二雄 Aさんは、70歳となつてからも、意欲的に作品づくりに取り組んでいます。

高岡市立定塚小学校の「ふるしろ子供館」には、藤子不二雄 Aさんと藤子・F・不二雄さんのコーナーがあり、子どもたちが夢中で作品を読んでいます。



藤子不二雄 Aさんは、記念講演のとき、みんなの前でまんがを描いてくれました。



高岡市立定塚小学校創校100周年記念式典に、藤子不二雄 Aさんは母校を訪れ、講演しました。「自分にとって、藤本君は純粋で何でも言い合える友人だった。友達をたくさん作ってほしい」と、子どもたちにメッセージを贈りました。

藤子不二雄 Aさんのほかに、芸術の分野で活躍した先輩がいます。シュールレアリスムの詩人であり、画家としても活躍した瀧口修造さんです。